

一般社団法人全日本学生柔道連盟だより

第28号

2023年12月1日発行

編集・発行 総務委員会

2023年度3大会を終えて

冲永 佳史

2023年度の全日本学生柔道連盟主催の大会が、コロナウイルス蔓延前の運営状況に戻る中、この3年間で忘れかけていた活気を一気に取り戻すかのように盛会のもと無事終了することができました。改めまして大会の運営に携わっていただいた関係各位、協賛企業の皆様、そして参加した学生選手諸君に感謝を申し上げます。

またこのことは、我々にとって改めて柔道の魅力とは何かということを考える時間を与えてくれるものになったことも強調しておかなければなりません。団体戦。個人戦それぞれで醸し出された真剣勝負は、選手諸君が不断の努力で培った力がぶつかり合う、人を魅了するものでありましたし、それはまた互いに切磋琢磨する仲間存在、そして指導者との厳しくも信頼に培われた稽古があったからこそと思います。

柔道における重要な構えである「精力善用・自他共栄」は、柔道のみならず、人がその興味のもとに何かに取り組む上で、そして自らを生かす上で必須の指針であると言えますが、そのことがスッと心の中に落とし込まれることは難しく、それなりの経験や苦勞を経ることで少しずつ納得のいくものになってくることが大方の傾向だと思われすが、選手諸君のほとんどはそのような経験を経ることができたのではないかと、今年度の大会の勢いから感じたが故に、上記のような思いに至ったのであります。

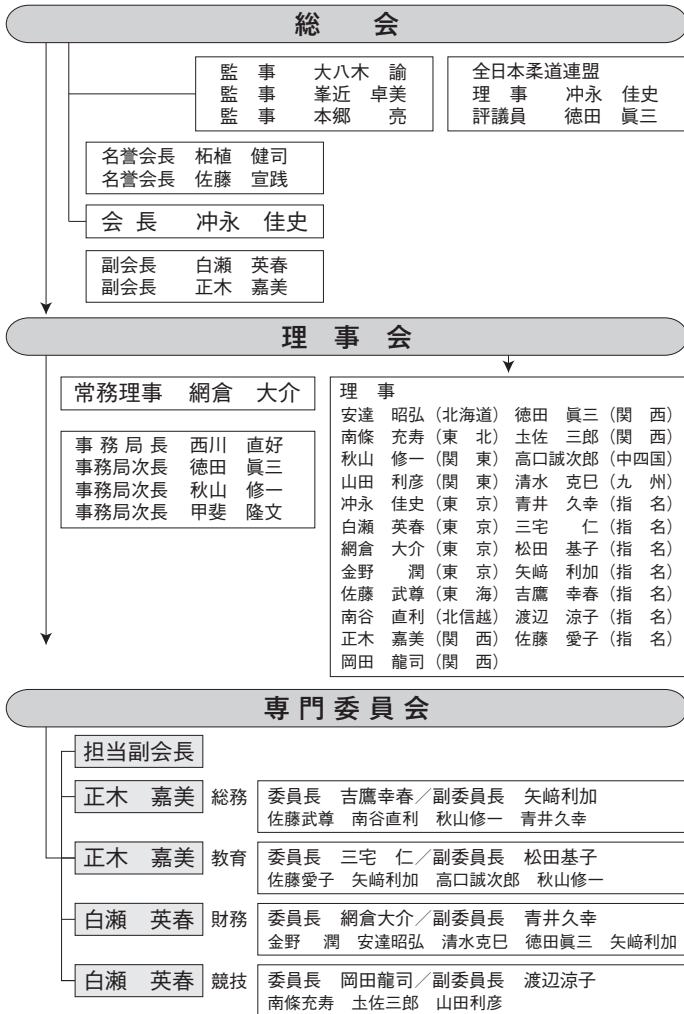
そして今年度においてはその勢いを借りつつ、全日本学生柔道連盟発足70周年を契機とし、申し上げたような柔道の魅力を伝え普及を促進する試みとして、柔道の形全国大会を開催するとともに、女子柔道選手の育成大会を新たに設け、様々な角度から柔道を知っていただく機会を設けるべく計画を練っているところであります。また、学生諸君の将来における活躍の場がより広がるよう、国際交流の促進や、キャリアパスの構築、指導者育成など、教育面での活動も引き続き進めて参る予定です。皆様には本連盟が推進する活動ぜひ見守っていただきたいと思ひます。

さて、このように本連盟が新しいことに挑戦するにあたっては、全日本柔道連盟をはじめ、各連盟との協働作業を進めることが必須であり、柔道界が設定すべき課題を共有し、各連盟ができることを一つ一つ着実に実行することが肝要となります。ことに柔道の競技人口の減少は、少子化のスピード以上に進んでいる現実があり、日本柔道を担う人材の育成に支障をきたすことはもとより、柔道が持つ心身の育成における利点を通じて社会に貢献することを諦めざるを得ないことになりかねない状況を打破しなければなりません。

去る9月30日に、2022年に行う予定であった創立70周年記念式典尾よび祝賀会を挙行することができたのではあります。当日は上村春樹講道館長、中村真一全日本柔道連盟会長、更には佐藤信秋柔道国會議員連盟事務局長をはじめ、多くのご来賓の皆様のご出席のもと、多くの関係方々にお集まりいただき、ご祝辞を頂くとともに、協働して克服すべき課題についての共通認識を深めるお言葉を頂戴いたしました。幸いにもこのように、柔道界が意見を交えながら一つ一つの課題に向き合うことができる状況にあることを確認できたのであります。申し上げたような、本連盟が行なうこれからの取り組みを着実に遂行する上で、後押しがあるという安心感とともに、それらを着実に遂行していくことの責任を改めて感じた次第です。

年の瀬が迫る中ではありますが、本年度の事業が残っておりますので、今後とも皆様方の本連盟に対するご理解と、事業運営に際し積極的なご協力を賜りますよう、また忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 全日本学生柔道連盟組織図(2023)



理事の職務分担

総務委員会	(1) 定款及び細則ならびに各種規定に関する事 (2) 年間計画の策定に関する事 (3) 日程の調整に関する事 (4) 会報及び出版物の刊行に関する事 (5) 助成及び顕彰に関する事 (6) 正会員に関する事 (7) 他団体との折衝に関する事 (8) その他、各委員会の所管に属さないこと等
教育委員会	(1) 研修会、講習会、教養講座など教育事業に関する事 (2) 国際交流に関する事 (3) 医学に関する事等
財務委員会	(1) 資産及び会計に関する事 (2) 会費の徴収、財源の確保に関する事 (3) 賛助会員の拡大に関する事 (4) 競技会の協賛に関する事等
競技委員会	(1) 競技に関する事 (2) 審判員に関する事 (3) 競技力向上に関する事 (4) 国際競技会等への代表選手選考に関する事等

正会員数(地区学生柔道連盟別・2023年12月1日現在)

北海道	東北	関東	東京	東海	北信越	関西	中国四国	九州	合計
16	18	37	48	23	14	48	32	26	262

【北海道】

2023年度、北海道学生柔道連盟の加盟状況は加盟14校、部員数204名(内女子20名)で、2022年度と比べ、加盟校の増減なし、部員数20名の減少で、部員数は300名を切る状況でした。現在のところ2024年度新規加盟希望の連絡があり、次年度は加盟校が15校になる予定です。

さて、2023年度の話は何と言っても全世界にまたがって蔓延し猛威を振るった、コロナウイルス感染症の分類が2類であったものが、2023年5月に5類感染症と格下げになったことと思われま。本感染症で大混乱が生じ、全日本学生柔道連盟、各大会主幹学生柔道連盟の皆様が大変な思いをされたと思いますが、まずは一安心で世の中が『リスタート』を切ったと察します。これに伴い、北海道地区では主要な5大会、北海道学生柔道優勝大会、兼全日本学生柔道優勝大会北海道予選を5月21日、北海道学生柔道体重別選手権大会兼全日本学生柔道体重別選手権大会北海道予選を8月26日、北海道学生柔道体重別団体優勝大会兼2023年全国学生柔道体重別団体優勝大会北海道予選を8月27日、北海道学生柔道新人大会及び北海道学生女子柔道階級別選手権大会を11月23日に開催することができました。5月21日の優勝大会では、5類への移行が決まったばかりで、恐る恐るの開催でしたが、集団感染等の問題は勃発せず、安堵したことが昨日のように思い出される次第です。しかしながら、感染症の分類が2類から5類に変わったことで、ウイルスの中身が変わるわけではなく、小中学校では学級閉鎖が散発するなど油断は禁物の状況は続くと思われま。上記を踏まえながらも、やっと動き出したリスタートをさらに推し進めるべく、当連盟では2024年度、下記の5つの大会の開催を予定しています。5月18日に全国大会の予選を兼ねて北海道学生柔道優勝大会、同じく全国大会の予選を兼ねて8月24日に北海道学生柔道体重別選手権大会、翌25日に北海道学生柔道体重別団体優勝大会、そして11月23日に北海道学生柔道新人大会と北海道学生女子柔道階級別選手権大会。更には、定着しつつある、全日本学生柔道形競技会での上位入賞を目指し、形の稽古にも励んでいきたいと思われま。

2023年度の役員(敬称略)は、2022年度と比較して、理事長、副会長、常任理事に変更があり、以下の通りです。

会 長	岩崎 満
副 会 長	工藤 正義 安宅 一夫 小山 尋明
理 事 長	安達 昭弘
副理事長	岩井 眞 森 洋一 十倉 宏 松浦 英幸(事務局長)
常任理事	熊澤 幹二 三嶋 康嗣 阿部 眞久 大内 基樹 今井 克俊
監 事	坂井 俊文
事務局長	松浦 英幸

北海道学生柔道連盟 事務局長 松浦 英幸

【東北】

1. 役員の改選

2023年度は、改選時期ではなかったため、大きな異動はなく、豊嶋良一会長、南條充寿理事長のもとで順調に事業運営を行っている。事務局については長年、東北学院大学が担ってきたが、今年度より、東日本国際大学に移した。事務局長の若返りも図り、今後の事業を充実させていく。

2023年度役員

名誉会長	遠藤 純男・元会長
顧 問	佐々木武人・元会長
顧 問	高橋富士男・前会長
会 長	豊嶋 良一・東北学院大学
副 会 長	佐々木安廣・富士大学
副 会 長	三戸 範之・秋田大学
副 会 長	高橋 俊哉・弘前大学
理 事 長	南條 充寿・仙台大学
副理事長	大関 貴久・東日本国際大学
副理事長	阿部 文智・東北学院大学
*監 事	及川 大道・東北大学
*監 事	盛 広・青森中央学院大学
*事務局長	佐藤 佳祐・東日本国際大学
* 次長	三浦 友和・東北福祉大学
*学生委員長	女鹿 和希・東北学院大学

(*~新)

2. 東北学連の事業運営

2022年度は、新型コロナウイルス感染症に十分に注意を払い、計画している事業をすべて開催でき、大会開催による感染拡大等の報告もなく、無事に大会を開催することができた。

2023年度の事業だが、東北学生柔道優勝大会については3年ぶりに有観客で開催することができ、多くの応援学生や、父兄、観客に足を運んでいただいた。次は、8月の東北学生体重別大会(個人、団体)であるが、大会が成功するよう準備をしていく。

3. 今後について

本連盟の各会議は、すべてwebによる会議を継続しているが、離れた場所であっても活発な議論をすることができ、今後の会議においても多いに活用していきたい。

東北学生柔道連盟 副理事長 阿部 文智



【関東】

○2023年度全日本学生3大会を終えて

2023年2月に行われた2022年度関東学生柔道連盟総会において、昨年度に引き続き吉鷹幸春先生を会長とした役員が構成され体制が整えられた。本連盟のさらなる発展のためにご尽力いただきたい。

2022年度は、新型コロナウイルスの影響により、本連盟では、健康記録表等の提出、人員・人流の抑制、消毒やコーチング禁止の徹底などの制限は継続して行い、なるべく従来どおりに近い形で大会を実施することができた。これもひとえにこれまでご協力いただいた皆様方のおかげである。

また、全日本学生3大会は有観客での開催となり、大変活気のある素晴らしい大会であった。新型コロナウイルスの影響により、制限が多く設けられる中で、このような有観客開催を成功させた、東京学連、関西学連の皆様方には、頭の下がる思いである。2021年度、千葉県開催となった優勝大会・体重別選手権大会、東京学連との共催として本連盟も携わった際も同じような気持ちになった。多くの柔道家の思いを背負い、大会の運営に尽力してくださった学生、コロナ禍で思うように柔道に打ち込めない中、柔道家として修行を継続した学生、すべての学生に感動した1年であった。改めて感謝を申し上げたい。

2023年度、本連盟でも有観客での開催を実施することができた。全日本学生3大会も制限なく開催され、選手のみならず、ともに柔道に励む仲間や、保護者の方々にも感動を共有できたことはたいへん嬉しく思っている。歴史ある学生柔道のますますの発展に本連盟一同、尽力していきたい。

関東学生柔道連盟 事務局長 奥田 修平

【東京】

2023年度を振り返って ～コロナ禍を経て新たなスタート～

2020年より猛威を振った世界的なコロナ禍も収束に向かい、本年度の連盟諸事業は、概ね予定通り実施されました。これまでの大会事業等における基本的な対策と体制は維持し、主催事業はもとより、主管事業においても新たな気概で連盟運営を行うこととなりました。近年の、少子化傾向に加え、コロナ禍により、加盟校数や登録者数は減少傾向が加速しつつあります。本連盟としても、これまでオープン大会の開催等、学生柔道の普及に努めてまいりましたが、この機を捉え、さらなる普及策を講じていく必要性から、現在、専門委員会における活発な協議を始めております。これからも本連盟各加盟校との連携を一層深め、役員一丸となって厳しい環境を乗り越えて参ります。今後とも関係各位のご協力を賜りますようお願いいたします。

(組織運営)

連盟運営の方向性を示す「運営ガイドライン」をバージョンアップし、将来的な視点での自主財源ベースの運営を目標におきます。これまでの「感染症防止対策」も適宜更新し、より安全な諸事業の実施を目指してまいります。また、全国大会主管連盟としての体制整備・充実を進めていきます。

(財務状況)

現在、安定財源確保のために、佐藤、高木歴代会長から現在の白瀬会長に引き継がれた「Come Back 柔道連盟サポーター（賛助会員）」は毎年多くのご加入を頂き、本年度はコロナ禍も一定収束し、大会事業にも皆様に多数来場いただき、その実をあげております。

(教育普及)

コロナ禍にあって、これまで成果を挙げて参りました海外研修事業に関しては、計画をしつつも実施見直しを含め柔軟な対応が必要と考えております。本年度は見合わせましたが、来る新年度は、国際人の育成を連盟全体に波及させていく事の目的を踏まえ、事業復活を検討してまいります。

また、学生柔道の裾野を広げ、かつ技術的な向上を目的として事業化しております、「柔道出前講座」は、加盟校からも大変好評を得ております。本年度も含めて鋭意展開しております。さらに、社会貢献・奉仕の心を養うために、多年に渡り実施しております全国視覚障害者柔道大会の運営協力も行いました。

東京学生柔道連盟 理事長 網倉 大介

【東京(続き)】

今年度役員(任期は規約により2年)

名誉顧問 佐藤 宣践・東海大学
会 長 白瀬 英春・東海大学
副 会 長 大八木 諭・中央大学
石原研二郎・東京大学
森脇 保彦・国士舘大学
渡邊 敏之・法政大学
金野 潤・日本大学
網倉 大介・日本大学
理 事 長 網倉 大介・日本大学
副理事長 西川 直好・法政大学
廣瀬 伸良・順天堂大学
青井 久幸・中央大学
監 事 池田 悦雄・法政大学
林 信男・東京大学
事務局長 甲斐 隆文・日本大学
総務事業委員長 瀧本 大成・慶應義塾大学
総務事業副委員長 穴井さやか・帝京大学
渡辺 崇・日本体育大学
財 務 委 員 長 青井 久幸・中央大学
財 務 副 委 員 長 大原 友里・立教大学
普及競技委員長 佐藤伸一郎・拓殖大学
普及競技副委員長 高橋 歩・専修大学
佐藤 愛子・東京女子体育大学
学生統括委員長 細田 明・日本体育大学
学生統括副委員長 寺下 浩陽・日本大学

学生役員より

時下の候、日頃よりご支援を賜りありがとうございます。

東京学生柔道連盟学生委員一同を代表してお礼を申し上げます。

私たち東京学生柔道連盟は、4年生2名、3年生2名、2年生1名、1年生2名の計7名の学生が学生柔道界の代表であるという自覚を持ち、学業との両立を図りながら日々大会実施に向けて活動を行っております。

昨年度は世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染対策のため、観客や選手にマスクの着用を義務化し、応援する際の声出しも禁止し拍手のみとさせていただきました。しかし今年度は昨年度まで義務化していたことを緩和させ、2019年度ぶりとなる盛り上がりとなりました。このような盛り上がりを見せ、無事に今年度全大会を終了できたことは日頃からご指導・ご協力いただいております多くの先生方、選手、関係者の皆様のおかげでございます。

また私自身、東京学生柔道連盟歴代初の女性委員長として今年度指揮をとらせていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。未熟なところも多々あり、先生方、関係者の皆様にはご不便をおかけしたことかと思えます。その都度多くの皆様に手を差し伸べるいただき、この一年間で人として、競技者として大きく成長することができました。

この経験を後輩へと繋ぎ、来年度も素晴らしい大会を運営できることを心よりお祈り申し上げます。

各地区学生柔道連盟並びに先生方、関係者の皆様には今後一層のご理解、ご支援の程よろしくお願いいたします。

東京学生柔道連盟 学生委員長 宮木 里湖

【東海】

コロナ禍によって大会の中止や縮小、活動制限など、学生柔道にも暗い影が落とされてきました。今年度に入り明るい兆しが見えてきたことを踏まえ、東海学生柔道連盟では改めて組織力の強化や大会運営の改善を図るとともに、コロナ禍により中断していた事業の展開などを具体化し、実行に移すべく役員一同が力を合わせて取り組んでいます。東海地区における学生柔道が留まることなく発展し、有為な人財を醸成する場となるよう、活発な組織づくりに尽力していきたいと思えます。

昨年度、全日本学生柔道連盟の70周年記念事業として、「全日本学生柔道形競技大会」が開催されました。当連盟からも各大学で熱心に稽古を積んだ複数のチームが出場し、形競技大会を盛り上げました。とりわけ「固の形」で名城大学（石川聖人、更谷岳ペア）が第1位、「柔の形」で中京大学（小堀風宇、水野有菜ペア）が優秀賞という素晴らしい成績を収めました。これは一重に各大学の指導者の先生方による熱心なご指導と、それに呼応する形で必死に稽古を積んだ学生諸君の努力の賜物です。当連盟としても大変誇らしく、この場をお借りして敬意を表します。

また、天理大学で開催されました、「全日本学生柔道 Winter Challenge Tournament 2023」において、100kg超級で深井大雅選手（愛知大学）が準優勝を果たしました。全国の強豪選手が集う本大会の重量級で入賞したことは、当連盟にとって明るいニュースであり、地方の大学に所属する学生にとっての励みとなるものです。あわせて東海地区の学生が全国規模の大会で活躍できることを示す成果と言えます。

引き続き東海学生柔道連盟では、役員一同が知恵と工夫を重ね、学生柔道の発展に寄与していく所存です。

1. 役員

会長	竹内 外夫（中京大学名誉教授）
副会長	松本 秀彦（至学館大学准教授）
理事長	佐藤 武尊（皇學館大学准教授）
副理事長	久野 高裕（愛知大学職員）
副理事長	三宅 恵介（中京大学准教授）
事務局長	福井 博泰（名城大学職員）
事務次長	早川 太啓（中京大学講師）
事務次長	松田 悠佑（皇學館大学職員）
監事	柴田 光徳（元愛知学院大学職員）
監事	小林 秀明（名古屋商科大学OB）
学生委員長	水野 有菜（中京大学）
学生副委員長	小池玲二郎（中京大学）

学生副委員長 大藪 太郎（愛知大学）
事務局補佐 横田 光史（名城大学）

2. 行事予定

5月21日（日）於：愛知県武道館
第70回 東海学生柔道夏季優勝大会
第30回 東海学生女子柔道夏季優勝大会

8月27日（日）於：愛知県武道館
第42回 東海学生柔道体重別選手権大会
第40回 東海学生女子柔道体重別選手権大会

3. 昨年度大会結果（団体優勝校）

第69回 東海学生柔道夏季優勝大会
7人制 愛知大学 5人制 米田柔整専門学校
第29回 東海学生女子柔道夏季優勝大会
5人制 中京大学 3人制 至学館大学

4. 学生委員長（水野有菜）の抱負

今年度、東海学生柔道連盟の学生委員長を拝命いたしました中京大学4年生の水野有菜と申します。昨年度より、理事長や事務局長、前学生委員長のもとで大会運営の手伝いをさせていただきました。このことを通じ、自分が思っているよりも大会を運営することが難しく、大変であることを学びました。また、前学生委員長や事務局補佐の学生が主体的に大会運営にしっかり関わっていることに気づきました。そのため、学生委員長を引き継ぐにあたり、「学生が大会運営に主体的に関わっていく。」ということをもットーとし、5月27日開催の東海学生柔道夏季優勝大会、東海学生女子柔道優勝大会に臨みました。その結果、副学生委員長、事務局補佐の学生とともに学生が自ら動き、協力して大会を運営することができたと感じています。次の大会は、8月27日開催予定の東海学生柔道体重別選手権大会及び東海学生女子柔道体重別選手権大会です。

これからも、学生委員長として、学生の代表という自覚を持ち、まだまだ力不足なところもありますが、精一杯頑張っていきますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

東海学生柔道連盟 副理事長 久野 高裕

【北信越】

＜北信越学生柔道連盟役員＞

会 長 牧 泰二
 副 会 長 阿部高弘・上田重隆・大柿 実・松永大吾・
 藤田真郎・玉田善明・紐野義昭・野本正人・
 砂塚隆広・武田秀則・諏訪部仁
 理 事 長 南谷直利
 副理事長 渡辺直勇(兼事務局長)
 常任理事 渡辺涼子・鈴木貴士(会計)・川端健司・
 桐生 拓・宮本 晃・横谷智久・林 俊伍・
 宇城裕二・星野 力

2023年1月に全日本学生柔道連盟70周年記念事業として、全日本学生柔道発足以来、初めて「全日本学生柔道形競技大会」が開催され、北信越学生柔道連盟(以下本連盟)が主管として記念すべき大会に携わりました。そこで今回は本連盟のような地方の学生柔道連盟が大役を任されるに至った経緯について報告します。

コロナ禍で多くのスポーツ活動が止まってしまい、学生柔道も例外ではありませんでした。この現状に甘んじることなく学生の新たな柔道修行の場を模索していました。そこで本連盟は、コロナ禍という世の中の流れに抗うことなく、形競技を映像で審査するという日本で初めてとなる新しい形式の形競技大会を企画し、2020年度に「第1回北國杯全国学生柔道オンライン形競技大会」を開催しました。

嘉納治五郎師範は乱取と形を作文と文法に例えられています。その原点に立ち返り、より良い乱取、試合をする上で文法である形の練習は大変有意義であり、形のための形練習ではなく、形を学ぶことで、「理にかなった技を乱取や試合で活用して欲しい」、形を通して「柔道の多様性に触れてほしい」、そして、「大学生の活躍の場を上げたい」、そんな願いを込めて本連盟は形の競技大会を開催したのです。

全日本柔道連盟の協力による指名審査員から、演技者である学生だけでなく大学の指導者にも形の修行への認識を深めてもらうことを目指して、採点に加え演技に対するコメントもつけてもらいました。

勿論、一朝一夕にしてこのような大会を開催できたわけではありません。日本で初めての試みだけに、映像撮影の基準作りから映像の処理、管理、関係方面との調整等の諸問題に立ち向かいながらも大会を実現できたのは、本連盟の大会成功への強い意欲に加え関係者の献身的な努力があったからに他なりません。

新しい試みである録画審査方式の競技方法が全日本柔道連盟でも評価され、そのノウハウを参考にして「令和5年(2023年)全日本柔道形競技大会全国予選」が開催されました。このような実績に鑑み、全日本学生柔道連盟70周年記念事業として、「全日本学生柔道形競技大会」が開催されるにあたり、主管という大役を担うことになった次第です。

本連盟は、近年こそ競技面で顕著な成績を収める選手を輩出していませんが、学生柔道の本来の姿に立ち返るべく、「競技としての柔道と教育としての柔道の融合を図ること」を目標に掲げて活動しています。

北信越学生柔道連盟 副会長 藤田 真郎

【関西】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が5類感染症に位置づけが移行されたことにより、本連盟では通常の大大会運営に徐々に戻しながら、さらなる円滑な運営を目指して学生が懸命に努力を重ねてまいりました。また、この3年間のコロナ禍の以前の大大会運営を知らない学生に対して、OB・OGに協力を仰ぎながら「チーム関西」として一体となり、改善に努めていきました。その結果、5月28日に関西学生柔道優勝大会、8月20日に関西学生柔道体重別選手権大会の両大会を主催として、さらには10月21日・22日の全日本学生柔道体重別団体優勝大会を主管として、それぞれの大会を無事に開催することができました。大会時には多くの課題が発見されましたが、それらは本連盟の経験となり、次年度以降の大大会運営に向けた本連盟員の知的財産になるものと考えております。

また、今年度の9月4～8日には、本連盟に所属する各大学から選抜された学生26名とともに、教育と交流を目的とした韓国遠征を実施しました。5日間の日程では早朝にソウル市内でランニングトレーニング、午後には韓国体育大学の学生と稽古を行いました。この遠征によって、参加者は異国でも同様に柔道を志す学生同士の国際交流や異文化教育など、多様な経験を積み重ねることができたものと思われまます。

以上の本連盟における大会運営業務や学生に対する教育活動を通じて得られた多くの成果は、COVID-19が社会全体に与えた影響の中で再確認されたものではありませんが、その後も学生と指導者が「大会を成功させる」等の目標を達成するために、主体的に運営業務に参画し、他者を慮りながらコミュニケーションを図ることによって、大会の成功とともに多くの学びを得ることができました。それは、柔道の教育理念である「精力善用・自他共栄」の教えであり、修行者にとって必要不可欠な考え方を新たな時代においても肝に銘じていかなければならないのではないのでしょうか。各種の業務を通じて得られた学びや教を胸に刻み、これからも学生柔道がますます発展するとともに、本連盟が社会を補益する人材を輩出する使命を担えるような取り組みを一丸となって目指したいと考えております。

関西学生柔道連盟 会 長 近藤 徹
 副 会 長 佐々木裕二
 副 会 長 正木 嘉美
 副 会 長 峯近 卓美
 理 事 長 岡田 龍司

【中国四国】

中国四国学生柔道連盟は、5月16日に理事会、5月18日に総会をオンラインで開催し、令和5年度の事業計画等を承認しました。

今年5月から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行され、5月に開催された中国四国学生柔道優勝大会は、コロナ前のように開会式に全出場者が参加し、観戦者の制限もなくなり、大勢で大きな歓声のもと熱戦が繰り広げられました。久しぶりの感覚で安心しました。

当連盟は、今後、海外研修も再開できると思いますし、様々な取り組みを実施しながら、魅力ある連盟と発展していきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(令和5年度 中国四国学生柔道連盟 行事予定)

4月7日(金)

中国四国学生柔道連盟 定例幹事会 (ZOOM)

5月20日(土)~21日(日)

中国四国学生柔道優勝大会

(男子69回、女子30回) [岡山県立岡山武道館]

7月7日(金)

中国四国学生柔道連盟 定例幹事会 (ZOOM)

8月26日(土)

中国四国学生柔道体重別選手権大会 (第42回)

[山口県宇部市武道館]

中国四国学生女子柔道体重別選手権大会 (第39回)

[山口県宇部市武道館]

8月27日(日)

中国四国学生柔道体重別団体優勝大会

(男子第25回、女子3回) [山口県宇部市武道館]

2月中旬

中国四国学生柔道連盟 定例常任理事会

(日程未定、ZOOM)

中国四国学生柔道連盟 強化合宿 (日程・場所未定)

【九州】

九州学生柔道連盟では2023年度の行事を以下の通り開催し、全日本学生柔道優勝大会に男子5大学、女子6大学(一部:3大学、二部:3大学)が出場し、男子では熊本学園大学がベスト16、女子二部では東海大学九州が優勝、福岡工業大学が3位の成績を収めました。また、全日本学生柔道体重別選手権大会では、男子60kg級で南 太陽選手(日本文理大学)が3位、女子52kg超級で中嶋涼葉選手(福岡大学)が3位の成績を収めました。

新型コロナウイルス感染症感染者数は減少してきておりましたが、今年度におきましても大会開催に当たっては厳しい条件・制約の下での開催となり、大会関係者のご協力により無事開催することができ、学生・選手は柔道・試合ができる喜びを感じていたと思います。ご協力に感謝しております。

当連盟も、加盟大学が一丸となって魅力ある連盟と発展していきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

5月20日 定例総会

5月20日・21日 2023年度九州学生柔道優勝大会
(男子71回、女子31回)

8月26日・27日 2023年度九州学生柔道体重別選手権大会
(男子66回、女子36回)

【役員紹介】

名誉会長 藤田 弘 明

会 長 中 原 一

副会長 羽田野 節 夫

安河内 春 彦

理事長 清 水 克 巳

副理事長 小 澤 雄 二

房 前 善 行

坂 本 道 人

事務局長 飯 田 勝 弘

全日本学生柔道連盟 70周年記念式典祝賀会開催

2023(令和5)年9月30日、東京・半蔵門のグランドアーク半蔵門4階富士の間において『一般社団法人全日本学生柔道連盟 創立70周年記念式典 祝賀会』が開催された。

全日本学生柔道体重別選手権大会の初日、日本武道館での試合終了後、柔道関係者、加盟大学関係者、また、学生柔道を支えている協賛社や審判やドクターなどを中心に約200名が参加し盛大に行われた。

全日本学生柔道連盟の創立は昭和26(1951)年で、本来であれば、一昨年の令和3(2021)年に70周年の記念行事を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により延期を余儀なくされ、コロナ禍が落ち着いた今年、ようやく開催の運びとなった。

式典は、正木嘉美全日本学生柔道連盟副会長の開会の辞で始まり、沖永佳史会長の挨拶、そして、公益財団法人全日本柔道連盟の中村真一会長、公益財団法人講道館の上村春樹館長、議員柔道連盟代表で参議院議員の佐藤信秋氏による祝

辞、そして、協賛企業、功労者、70周年功労者の表彰と続き、功労者特別表彰を受賞した全日本学生柔道連盟名誉会長の佐藤宣踐氏より謝辞。

一般社団法人大学スポーツ協会の福原紀彦会長の乾杯後に歓談となり、しばらくの間、学生柔道の70周年を祝い、また親交を深め、盃を傾けた。最後は、白瀬英春副会長の挨拶で、祝賀会は閉会となった。

お土産には、70周年を記念して作られた記念誌『学生柔道70年の歩み』が渡された。

※記念誌『学生柔道70年の歩み』は、2011年から2022年までの全日本学生柔道連盟の活動の記録を掲載(主要3大会結果と主要記録、地区大会成績、海外研修など)ほか、特別企画として山下泰裕全柔連名誉会長×沖永佳史全学柔連会長対談などを掲載しております。

B5判272ページ。3000円で販売中(数に限りがあります)。詳しくは、全日本学生柔道連盟までお問い合わせください。



一般社団法人 全日本学生柔道連盟 (ALL JAPAN UNIVERSITY JUDO FEDERATION)

事務所 〒112-0003 東京都文京区春日1-16-30 講道館2階

TEL 03-3818-1587 FAX 03-3818-1960

E-mail: gakujuren@gakujuren.or.jp URL: <http://www.gakujuren.or.jp>